

岩屋中だより

令和5年11月14日 NO15

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

秋深まる。学びの秋・・・

学校を離れて学ぶ

10月23日(月)～25日(水)まで、2年生が修学旅行に行きました。

1日目は、長崎を出発して一路福岡市の博多駅へ向かいました。博多駅にて、バスから新幹線に乗り換え、広島市を目指しました。新幹線乗車後、すぐにアナウンスが入りました。愛知県で新幹線の線路に隣接したところで火災があり、東海道・山陽新幹線に遅れが出ているとのアナウンスでした。広島市到着が心配されましたが、15分少々の遅れで出発できました。広島市に到着後は、班別研修を行い、その後宿舎となる呉市に向かいました。無事到着して夕食などを済ませ、就寝しました。瀬戸内海に面し、自然に囲まれたホテルでした。寝食を共にする機会でした。

2日目は、呉市を出発し、一路宮島へ向かいました。歴史的に有名な厳島神社を見学し、その後、宮島の中で班別研修を行いました。ちょうど引き潮で、鳥居のすぐそばまで寄っていく一般観光客も多かったです。宮島では、お土産を買う生徒も多く、手には、「もみじ饅頭」のお土産が見られました。その後、山口県萩市に移動し、萩焼の絵付け体験を行い、一路湯田温泉へ向い、宿舎に無事到着して2日目の晩を過ごしました。山口県のガードレールが黄色であることに気づいた人や、歴史で有名な吉田松陰の故郷を感じた人もいたかもしれません。旅館にて、山口のお土産を買いながらも、さすがに2日目ということもあり、疲れた表情やあと1日しかないな・・・という表情があったように思えます。バスの中では、この修学旅行に向けて事前に準備しておいたクイズをしてレクレーションに興じたり、歌を歌ったり、聞いたり様々でした。

いよいよ、3日目。最終日は、関門橋を渡って九州に入りました。関門橋のある下関市は、江戸時代の幕末や明治時代に関係する名所も多いので、大人になって旅行するときに、再び訪れてほしいところです。九州に入って、最後の見学地である福岡市のマリンワールドを見学し、旅行団は、帰路につきました。16時30分頃、無事学校に到着して帰宅したという最終日でした。

学校離れて、学校以外の場所で学ぶという貴重な経験をした3日間だったと思います。その学びを終え、無事に学校に到着するのは、簡単そうに思えて大変難しいことだと経験上思います。学び、そして、無事に到着するためには、「ちょっとの我慢と笑顔が大事」という言葉の実践が大切です。修学旅行のしおりに記載された文言です。自己中心的な行動をとると、無事に学校に到着することは難しく、一人ひとりの意識と行動力があつたからこそ、無事に帰校できたと考えます。

さて、修学旅行は単なる旅行ではなく、学ぶ旅です。学んだことを整理し、日頃の学校生活に生かすことが大切です。学んだことを日常生活につなげることができれば、この学校行事は、意味あるものになり、2年生の学年目標である「B r i d g e」が達成できると信じます。

最後に、帰宅したときに何を感じましたか？「やっぱり家が一番だな・・・」と思えた人。その人は、家族のありがたみを感じた人ですね。その学びも大切です。大きな成果でしょう。写真をいくつか紹介します。



広島駅にて

1日目ナイトウォーク



1日目宿舎にて



巖島神社その1



巖島神社その2



宮島にてその1



宮島にてその2



菘絵付け体験その1



菘絵付け体験その2



関門橋をバックに



3日間の中で学んだことを生かしていくことを期待しています。

宿舎の方やツアーリストさんたちも、生徒の皆さんの行動を素晴らしいとお話しされていました。良いところは伸ばし、課題は克服していきましょう。

西北祭りにダンスチーム出演

1か月ほど前になりますが、10月15日(日)に西北小学校で開催された西北まつり(西北まちづくり協議会主催)に本校のダンスチーム(有志)が出演し、アクロバットで、リズミカルなダンスを披露しました。地域の方からも参照の声が聞かれ、岩屋中学校の力を感しました。また、前日の14日には、本校のテントをバスケットボール部やソフトテニス部が準備し、地域行事に貢献しました。



滑石ふれあいセンター祭りに合唱部が出演

11月3日の文化の日に、本校合唱部が滑石ふれあいセンター祭りで合唱を披露しました。コロナ禍以前に、四つ葉のクロバーコンサートとして地域行事を、今年度は、滑石ふれあいセンター祭りと同時に開催したものです。

当日は、多くの観衆が、本校の合唱部の歌声に癒され、ちょうど鈴木長崎市長さんが来場して歌を聞くことができました。

